



勝央北小ホームページ

<http://gakuji.town.shoo.lg.jp/shookita-es/>

きらり☆北小っ子だより



欠席・遅刻は、まなびポケットからお願いします。

1月の定時退庁日は23日(金)です。ご協力をお願い致します。



★2026(令和8)年がスタートしました!

旧年中は、一方ならぬご理解とご協力を賜りましたことに衷心より厚くお礼申し上げます。今年も、勝央北小学校の子どもたちが楽しく過ごし学べるよう

教職員一同、力を合わせてがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

午年の今年、3学期の始業式に当たって、馬の付く故事と、その故事に使われている漢字と同じ読み方をする故事を紹介しました。その同じ漢字が「人間」です。「人間(じんかん)」という言葉は、世の中(社会)という意味になるそうです。「人間万事塞翁馬」は、未来は予測できないことを言っています。一方で、「人間到處青山あり」は、どんな所でも志を持って頑張ることは大切だという意味です。故郷=勝央北小を卒業しても頑張ってほしいと6年生を中心にしてお話ししました。そして、最後に「セレンディピティ」を紹介しました。耳慣れない言葉ですが、意識して真剣に物事に向き合っていて、受け取る準備ができているときに、偶然のようにひらめきが生じたり発見できたりすることがあるという意味で使われます。古くは、アルキメデスが浮力を発見した、偶然、お風呂につかろうとしてひらめいた逸話は有名です。セレンディピティをgoogle検索すると、引き寄せやすくなるといわれている点をGemini(AI)が紹介していました。見れば小学校でも大切な点だと思われたので、紹介します。

○行動量 : まずはやってみよう、チャレンジしてみようとする積極性

○気づく力 : 観察力や課題発見力

○受容性 : 多面的、多角的な見方や考え方、それを受け入れる柔軟で前向きな心情

飛躍の年と言われる午年です。未来の予測は難しいですが、志を持って粘り強く頑張っていると、セレンディピティのようにすてきな未来が開けてくる可能性は間違いなく高まることでしょう。2学期の終わりには、さらに世界を広げ、意識を高くして「こけたら、立ちなはれ。」の気持ちで粘り強く取り組んでほしいと伝えています。

3学期は、特に6年生にとっては中学校への進学という環境が大きく変わるタイミングですし、1～5年生も進級する前段として、それぞれ大きなチャンスでもあります。1年間のまとめと次年度へ向けての準備が本格的に動き出す時です。短い期間ですが、しっかり成長の跡を確かめ合い、進学・進級の準備を行っていきたいと考えています。3学期も、意識を高くしてチャレンジする気持ちを大切に、志を持って「なりたい自分」を目指していきましょう。

人間万事塞翁馬

【由来】
中国の古代思想書『淮南子(えなんじ)』にある故事

【意味】
人生の幸不幸は予測できず、何が吉と出て何が凶と出るかはわからない

人間到處有青山

【由来】
江戸末期の僧・釈月性(しゃくげっせい)が詠んだ漢詩に由来します。

【意味】
故郷にこだわることなく、志を立てて世界中どこへでも出て大いに活躍すべきだ
→小学校版なので、故郷とは「勝央北小」

セレンディピティ

【由来】
スリランカの昔話『セレンディップの3人の王子たち』

【意味】
セレンディピティ(serendipity)とは、すてきな偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけること。

紹介した言葉



★読書の習慣について(学校アンケートから)～その1～

保護者の皆様には、学校アンケートにご協力をいただきありがとうございました。昨年も読書がなかなかできていないという結果が見られ、調べてみると貸し出し数はむしろ減っていないというデータが見つかり、昨年の学校便り1月号で紹介しました。そして、今年の学校アンケートでもできていないという結果から、読書に関わる統計を調べてみました。すると、読書体験の少ない子が増えているという調査結果を見つけました。

「読書をしない」子どもは 10 年前と比べて 1.5 倍に増加

スマホ時間と読書時間は逆相関関係があり、読書 0 分の子は語彙力・読解力が低い傾向

https://benesse.jp/berd/special/childedu/pdf/newsLetter/newsLetter_20251020.pdf

【調査テーマ】子どもの生活と学習に関する意識と実態（子ども調査）/保護者の子育て・教育に関する意識と実態（保護者調査）… 同一の親子を対象に 2015 年から継続して追跡する縦断調査

【調査時期】 2015～2024 年、各年 7～9 月から

【調査対象】 小学 1 年生から 3 年生までの保護者、小学 4 年生から高校 3 年生までの子どもと保護者
各回とも約 2 万組の調査モニターに協力を依頼、回収率は以下の通り

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
回收率(%)	76.7	73.7	80.0	79.2	76.3	76.6	75.4	63.9	61.3	61.6



今回は、ベネッセ教育総合研究所が東京大学社会科学研究所と共同調査した結果と分析を抜粋して紹介します。小学校から高校までを対象に調査されています。併せて、スマホに触れる時間も調査されています。図表1-1を見ると、全く本を読んでいない(0分)と回答している児童(低学年は保護者回答)の数が、小1~3年で33.6%、4~6年で47.7%で10年前の2倍弱に増えている結果になっていました。中と高を混ぜると、全体で、52.7%が0分を選んでいました。

次に、図表1-2を見ると、読書時間が2021年頃から徐々に減り、15分程度になっていました。10年前の2015年と比べると、小4～6年が最も減っていました。

この二つのグラフからは、10年前との比較で、読書0分と回答した割合の増加率も、読書時間の減少率も、中学・高校より、小学校の方が高くなっていました。 次回につづく